

第3回オープンキャンパス 模擬授業一覧

[2022年10月1日(土)]

栄養	<p>「おいしい給食のために必要なことを考えよう」(講師 沼口 晶子)</p> <p>給食とは、特定多数の人たちに継続的に食事を提供すること、提供する食事のことをいいます。給食の提供で最も大切なことは安全であることです。安全でおいしい食事をつくるためには、対象者に適した献立を作成し、設備・人員・予算・時間などさまざまな条件の中で計画を立て、実施し、評価することが必要です。給食が作られる過程や、安全な食事を提供するために大切なことについて説明します。</p>
看護	<p>① 午前「心を病むということ」(教授 結城 佳子)</p> <p>精神看護学では、うつ病や統合失調症など心の病を経験された方への看護をはじめ、広く精神健康に関するケアを学びます。病気になったり、けがをしたりすると、身体のどこかに変化が見えて、不調に気づくことができます。一方で、心の病ははっきりと目に見えないことが多く、周りの人も自分自身もなかなか不調に気づけないことがあります。今回の講義では、心について、心を病むということについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思っています。</p>
	<p>② 午前「筋肉注射を科学する！」(教授 長谷部 佳子)</p> <p>現在、新型コロナワクチンの接種が行われています。接種方法は筋肉注射で、従来のワクチン接種で用いられている皮下注射とは異なります。看護師は注射業務に携わることが多いのですが、準備から接種に至る迄の過程には、沢山の生物・化学の知識が求められます。高校で学ぶ生物・化学が看護にどう役立つのか考えてみませんか？</p>
	<p>③ 午前・午後「呼吸法、弛緩法、つぼ、痛みに対するケアをマスターしよう。」(教授 加藤 千恵子)</p> <p>母性看護学領域では、周産期、特に、分娩期の産痛緩和のためのケアを実践できるように学びます。対象の傍にいて、異常の早期発見ができるための観察力と産痛緩和のケアの様々な技術を使って、産婦さんを支えます。安全と安楽のケアの実践の一端を学びます。これらの技術は普段の生活から活用し、自らのセルフケアに活用してこそ、対象への具体的なアドバイスになります。是非、あなたも癒しのプロになりましょう。</p>
	<p>④ 午後「看護とコミュニケーション」(教授 長谷部 佳子)</p> <p>私達は患者様のお世話をさせて頂く際にご挨拶をしたり、看護師同士による“引き継ぎ“といった情報交換を行います。相手の方に好感や信頼感を抱いて頂いたり、専門職として簡潔明瞭な引き継ぎを行うためにもコミュニケーションの技法は非常に重要になります。この講義では、このような場面におけるコミュニケーションのコツについて考えてみたいと思います。</p>
	<p>⑤ 午後「地域で働く看護職～保健師の仕事を紹介します」(教授 播本 雅津子)</p> <p>保健師は、保健師免許と看護師免許を持ち、地域の行政機関等で働く看護職です。対象は赤ちゃんから高齢者まで幅広く、様々な職種の方と協力をして地域の人々の健康を守るために活動しています。模擬授業では、保健師の行う保健指導について具体的にご紹介し、保健師活動の役割と魅力をお伝えします。</p>
社会福祉	<p>「みんなが暮らしやすい仕組みやデザインと福祉」(助教 見城 育夫)</p> <p>例えば少し視力が弱い人でも読みやすいように工夫された配布資料や、怪我などで握力が少し弱まった人でも利用しやすいように工夫された水道の蛇口などはその人たちだけのためのものでしょうか。生活に溶け込むそういった仕組みやデザインについて画像を多めに紹介しながら、「福祉」が一部の人のための特別なものではなく、地域に暮らすみんなが幸せな状態をさす概念であることについて、できるだけやわらかくみんなと一緒に考えていきます。</p>
社会保育	<p>「からだを世界に開くということ 一かけがえのない経験は仲間とともに」(教授 三井 登)</p> <p>人類史の中で人間は火を手に入れた。子どもたちも火遊びが好きだ。火遊びは面白い。だから本学科でも火で遊ぶ。もちろん薪割りも。川遊びは一度びしょぬれになれば怖いもの知らずとなる。森の中での鬼ごっこは、学生版逃走中。ピヤシリ・シャンツェの尻滑りは斜度34度。朱鞠内湖周辺原生林では樹齢400年を超えるアカエゾマツに会える。楽しいと思える遊び経験をせずに、子どもの気持ちを共感的にわかる「よき保育者」になれるだろうか？机上の勉強はとても大事。そこに魂を入れることが、仲間とともにある名寄での経験だ。当日は関連科目の授業内容を写真等で紹介する。</p>